令和８年 11 月市長定例記者会見

（令和８年 11 月 11 日（水）10 時 00 分～）

市長発表事項

【和歌山市の繊維産業が、地域産業クラスター形成の核に ～「和歌山県 繊維分野における地域産業クラスター計画」が公表～】

おはようございます。それでは始めたいと思います。「和歌山市の繊維産業が地域産業クラスター形成の核に」です。和歌山県の繊維分野における地域産業クラスター計画が公表されました。令和 8 年 10 月 30 日、国の地域未来戦略――これは地方に大規模な投資を呼び込み、各地に産業クラスターを形成することで地域産業・地域経済の持続的な成長を図る戦略――この地域産業クラスター計画の一つとして「和歌山県　繊維分野における地域産業クラスター計画」が報告・公表されました。和歌山市も従来、県と共に計画を練ってきました。計画は県と市が一体となって策定し、国に提出していただきました。今回、本市は、この分野でクラスター形成の核となる区域に位置付けられています。本市は丸編みニットをはじめとする繊維製品の産地として、これまで発展してきました。特に丸編みニットは、和歌山の産地が国内出荷額の約 40%を占めており、全国 1 位です。こうした産業集積や技術力を持つ本市がクラスターの核となり持続的な発展を期していきます。パイルを中心とした橋本市の周辺地域も、いわゆる糸偏（繊維）産業として発展をしてきました。この方々とも十分連携をとりながら、ＤＸとＧＸを融合させた高付加価値の商品を生み出して参ります。また他の産業、特に食や観光とどのように組み合わせていくかがポイントになります。持続的な発展を期していくのに際し、この度、我々が範とするのが「児島ジーンズ」の取組です。倉敷市の児島のジーンズストリートは、和歌山のぶらくり丁のように一旦は商店街が非常に衰退したのを、ジーンズのブランド化を図ることにより、見事に商店街としてもよみがえった。ジーンズはニットと似て非常に細かな分業で成り立っており、分業の一つひとつを、工場を公開することで観光に結びつけていった。そして観光に来られた方をおいしい食でもてなし、食・観光・産業が融合した独特の雰囲気のある街になっています。駅を降りるとずらっとジーンズが吊るされ、何となく「おっ」と度肝を抜かれるような街になっています。今回、和歌山ニット商工業協同組合と児島ジーンズストリート協同組合が協業することになりました。私も調印式に参加をしました。手本となる児島ジーンズストリートの方々がいらっしゃいますから、後程申し上げますが、脱炭素先行地域の一環で北ぶらくり丁を整備していき、例えばここに和歌山ニットのアンテナショップを出して、児島ジーンズストリートを範に取ったまちづくりを有機的に結びつけて進めていきたいと思っています。

【～脱炭素社会の実現に向けて～ 脱炭素先行地域 モデルエリアの取組がスタート！】

今、申し上げました脱炭素社会の実現に向けて、「脱炭素先行地域のモデルエリアの取組がスタート」します。受付期間は 11 月 16 日から翌年 2 月 1 日まで、先着順で受け付けます。脱炭素先行地域には思い入れがあります。私が県議会議員時代、関西の各県で脱炭素先行地域が一つもない県は和歌山県だけでした。「当時の知事、岸本知事が非常に脱炭素の取組に力を入れていたにもかかわらず、和歌山県の市町村を含め一つも脱炭素先行地域がないのはどういうことですか」と質問しました。県からは「これは由々しき事であるので懸命に努力をして先行地域に選ばれるように頑張ります」との意味の答弁でした。そこで当時は県議会議員でしたが、和歌山市の担当課課長と話し、「県がやると言っているから一緒にもう一度チャレンジしましょう」と。当時、和歌山市がチャレンジしていましたが、残念ながら認定に至らなかった。そこで県と一体化して、「こういう答弁があるから、もう 1 回チャレンジしませんか」と申し出をして、ようやく関西で 1 県だけ、全国でも 3 つぐらいしかもうなかったと思いますが、空白であった本県のエリアに和歌山市が脱炭素先行地域として名乗りをあげることができました。これから 5 年度、令和 8 年から令和 12 年にかけて対象エリア内で太陽光発電設備やエアコンをはじめとした高効率設備の導入、既存の住宅や店舗を二重窓にするような断熱改修の支援を、国のお金を使い、3 分の 2 という非常に高額な補助率で整備できる。そのエリアに北ぶらくり丁商店街を組み込んでいますので、北ぶらくり丁商店街も脱炭素の取組の一環として整備して、例えば先ほど申し上げた地域未来戦略の中のニット産業と組み合わせて和歌山ニットのＢｔｏＣ製品をここで展開できないかと。そしてこの北ぶらくり丁商店街を、児島ジーンズストリートのようなストリートに生まれ変わらせていきたいと思っています。

【雑賀崎漁港における賑わい創出に向けた実証実験 ～魚を買うだけでなく、食べる、くつろぐ、景色を眺める～】

雑賀崎漁港における賑わい創出に向けた実証実験について。これは従来から非常に好評である船上販売を核として広がりのあるイベントにと考え、こういった形で実証実験をして賑わいの創出につながるか試みをします。期間は 11 月 23 日祝日から 11 月 29 日日曜日までを予定しています。船上販売は他府県から来た方々も「すごい、面白いね」と言っていただいているようです。これを核とした雑賀崎漁港がさらに賑わいを実証できるのか、楽しみにしています。

【道の駅 四季の郷公園に「AOZORA ICE PARK」が今年もオープンします！】

道の駅 四季の郷公園に「AOZORA ICE PARK（アオゾラアイスパーク）」が今年もオープンします。昨年非常に好評で、人が溢れて肩がぶつかるぐらいの賑わいを見せた「AOZORA ICE PARK」を、今年も 12 月 12 日から翌年 3 月 7 日まで実施します。

スペシャルゲストに織田信成さんをお招きして、スケート教室や一緒にスケートを楽しめるイベントを開催します。織田さんが来られることでさらに人気になる気がします。押し合いへし合いになるとの課題もいただいていますので、そういう課題をどうしていくかも含めて、これを機に更にブラッシュアップできるよう頑張っていきます。

【～秋の火災予防運動に合わせ、火災予防を呼びかけ～ 消防局と危険物防火研究会が JR 和歌山駅前で街頭防火啓発を実施】

秋の火災予防運動に合わせ、火災予防を呼びかけます。消防局と危険物防火研究会がＪＲ和歌山駅前で街頭防火啓発を実施します。いつも皆さんに啓発していますが、防火啓発用のポケットティッシュや不織布マスクを配布して火災予防を呼びかけます。先ほど入ったニュースですが、紀和駅付近でたばこの不始末で１室が焼失することが起きました。たった今、私のところに報告がありました。乾燥してくるこの時期に火災の予防は不断に呼びかけなければ、ついついということがあります。私は朝起きたら必ず仏壇にろうそくと線香をともしてお参りをするのですが、昨日家内に怒られました。「お父さん、ろうそくの火消えてへんで」と言われました。そういう、うかっとしたことがありました。田中角栄さんのお家が燃えたときは線香の火を消していなかった。線香の火ぐらいでそんなになるのかという油断もありますし、ろうそくの火もろうそくが消えてしまったら消えるのではないかと思いますが、例えば揺れがあってろうそくが倒れることがないとも限りません。たばこは出火の一番の大きな原因です。私が家内に怒られたように、常に誰かから啓発・啓蒙を受けていないと不注意なところから大きな火事になりますから、火災予防の呼びかけをしっかり行って参ります。

【クラウドサービスへの不正アクセスによる個人情報えいの二次被害にご注意ください】

クラウドサービスの不正アクセスについて、個人情報漏えいの二次被害にご注意ください。前回の定例会見でも申し上げましたが、現在の仕組みでこの個人情報が漏出を完全に食い止めるのは困難との認識を持っています。イタチごっこみたいなところがあり、ウォールを建てればウォールを乗り越えていく技術が向こうの方にも出てくるとのことです。例えば変な思考実験ですが、ＡＩに「これにハッキングするようなシステムを考えて」と聞くとバババーと考え、今度は「ハッキングをさせないようなシステムを考えて」と言うと、またバババーと考えるのかもしれない。どこまでいってもそういうことが起きる、救いのない社会になるのではないかとは思います。我々にできるのは、個人情報が流出する可能性を常に頭に入れ、それを利用したフィッシング詐欺等に引っかからないための防衛を個人でしっかりしなければいけないと、市民の皆様にお伝えしていくことが大切だと思います。どんな詐欺があるのか、できるだけ例示をしていければと思います。この頃は非常に巧妙になっており、私も「あれっ」と思うことがありました。私はＡｍａｚｏｎで買い物をしますが、Ａｍａｚｏｎのお知らせを装ったものが来て、何かあったのかと。あるいは飛行機のＡＮＡからお知らせを装ったものも。飛行機のマイレージをしていますので、見たら「あれ、これもそうかな？」

と引っかかりそうになる、上手なフィッシングメールが来ます。私の個人メールアドレスはどこへも出しておらず友人しか知らないのですが、どこかで漏えいしているのだと思います。我々ぐらいの年代では注意する習慣があるかもしれませんが、特に若年層やご高齢の方など防衛する意識が少し低かったり、アンテナを高く立てられなかったりする方々は、少しでもおかしいと思ったら県警ちょっと確認電話「0120-508-878（これは・わなや)」へすぐ相談してもらうのが一番です。すぐ相談してくださいとの啓発をこれからもしていかないと防げないと思います。ここ数日、あれが漏えいしたこれも漏えいしたとの報道が多発していますが、現代社会の宿命なのかもしれないと思います。不断に注意していかなければなりません。今現在、ＳＮＳツールを使わず生活するのは困難ですから、こういったものとして引き受けざるを得ないというのが正直な感想です。

記者の質問事項

（記者）：
これまでの報告済みの不正アクセス事案の中で、和歌山ジャズマラソンの参加申込サイトからの流出も確認されており、大会前に不正アクセスで悲しい思いされた方もいらっしゃると思いますが、大会の運営で影響が出そうといった、今後の影響があれば伺いたいです。
（市長）：
現在までのところ、大会の運営に関して支障が出るとの報告は聞いておりません。例えばジャズマラソンに参加する方のようにマラソンやスポーツに興味がある方を狙ったフィッシング詐欺に使われることが懸念されますが、幸いにして今のところ大会運営に支障が出るような事態には至っていないと認識しています。
（記者）：
地域産業クラスターの件は、市長が選挙の前から一生懸命取り組まれていたことが形になったわけで、改めて所感をお聞かせください。
（市長）：
選挙前の公約から地場産業、特に繊維と化学を推していました。今流行りの言葉で「繊維・化学推し」です。和歌山市のような、どちらかというと大きくない市が産業政策をするには重点的なところを決めないと、総花的に政策を展開しても成果を出すのは難しく、一番ポテンシャルのある産業を後押しして育てるのが最も効果があると考えます。和歌山市でそういった産業というと、糸偏（繊維）産業、そして化学産業だとの思いを、議員時代からずっと抱いていました。児島ジーンズに伺った時も思いましたが、この糸偏（繊維）産業について、例えば最新の編み機で編んだ現代的な風合いの生地へのニーズはありますが、これからは作っていく過程がその商品のブランド価値を決める時代になります。何を言いたいかというと、「古い編み機で編んでいること」自体が、その商品のブランド力の向上に資する時代になってきたのです。少し前は、古い機械で編んだものより最新の機械で編んだ方がいいと誰でも思っていましたが、最新スマートフォンにニーズがある一方で、昔のパカパカ携帯電話をかっこいいと思ったり、旧車の人気がすごく出ているように、古い車の価値が買ったときより遥かに上がったりする。10 年前、20 年前は夢にも思わなかったところに価値が付く。もしかすれば時代のスピードが速くなりすぎて、我々の心のあり方が、そういった古く変わらないものに対して価値を求める傾向にあるのかもしれないです。現実にマーケットとして児島ジーンズが成り立っているのは、児島ジーンズの製作の過程に価値・お金を出す方がいるからです。児島ジーンズのブランドタグを外して並べても「この風合いが…」など分からないかもしれません。しかし児島ジーンズは工場を公開することで、手作業で色落ちさせたり、ダメージを与えたりといった過程を全て見てもらうことで、非常に日本的な手間暇のかかった工程で児島ジーンズが作られていることを消費者が分かるようにした。それを理解する消費者層が一定程度出てきた。だから児島ジーンズがブランドとして復活できた。同じような

ことを和歌山ニットにもできるのではないかと私は思っています。この度、児島を訪問させていただき、すごく良かったです。和歌山ニットの生産も、先ほど丸編みと申し上げましたが、今はまだ古い編み機が残っている。その古い編み機の操作は、古いからこそ職人技でないとうまく使えない。ここにまた価値がある。最新の機械や最新の車は誰が運転してもある程度上手に運転できるかもしれないですが、昔の車はクラッチがあったり、運転の上手下手があったり、これを操れることが価値になる。操れる自分がその車を欲しいなど、そういうところに価値があるのかもしれない。今、古い編み機が残っていますが、これを操れる職人の方もまだいらっしゃる。ここにすごく価値がある。この編み機を使って編んだＴシャツやニットに価値を持たせられるのではないか、そういう物語を紡げるのではないかと思います。児島ジーンズも決して安くないですが、ある程度マーケットで評価されれば、次の跡を継ぐ若い職人が出てくるのではないか。そういった試みに地域未来戦略に基づく国の支援策なども活用していきたいと思っています。

（記者）：

雑賀崎漁港の話について、この地域で実証実験をする意義を改めてお聞きしたいのと、実証実験の結果にもよると思いますが、市長として将来的にこの辺りをどうしたいか構想があれば教えてください。

（市長）：

選挙のときにも申し上げましたが、私、「グレイター和歌浦湾構想」を打ち出しています。点々と政策を打つよりも、南は先日霞ヶ関キャピタルさんが買収したマリーナシティの対岸から加太まで、あるいはもう少し北までを「グレイター和歌浦湾」と呼び、一体的に面として開発していきたい。その中に雑賀崎漁港があります。雑賀崎は最近「日本のアマルフィ」という呼び名が出てきましたが、例えば関西エリアの方々に「雑賀崎」と言っても、雑賀崎という地名を知っていらっしゃる方はそんなにいないと思います。和歌山市の方だとみんな知っているけれど、他府県の方に雑賀崎と言っても分かってもらえない。和歌浦は、全国に知られているは言い過ぎかもしれませんが、関西エリアでは結構知られた存在です。「和歌浦行こうよ」と和歌浦の観光に来ていただいた方が、雑賀崎エリアに立ち寄っていただける。和歌浦湾の中の楽しいエリアとして位置付けられればと思います。この間、淡路島の西側の株式会社バルニバービさんが開発した施設へ視察に行きました。そこで伺った話ですが、レストランを作るといったとき、「ここにレストランを作っても絶対失敗するからやめときな」「作ってくれたら嬉しいけど、地元にお金が落ちるけれど、絶対誰も来ないからやめときな」と地元の方に言われたそうです。そこにレストランを作ろうと思った大きな原因は、夕日が綺麗だからです。夕日が綺麗というのは、我々はしょっちゅう夕日を見ているので大層な価値がないと思っていましたが、すごく価値のあることらしい。朝日よりなぜか夕日らしいです。ここの夕日っていうのは非常に綺麗であります。その方がおっしゃったのは、船上販売はあまりないと。結構オリジナルっぽいのです。だから和歌山の売りになるのではないかと考えています。私は県議会議員時代にいろんな漁港を回っていまして、和歌山の漁港はどこ

に弱点があるのかと。例えば東北の漁港に行くと所得が高い。なぜ高いかというと加工しているからです。漁港の中に加工場があり、加工して付加価値をつけて売るから、漁協の方の所得も高くなる。魚をそのまま売る、商社の方が入ると所得が高くならない。そこが弱点だと思っていました。船上販売ということで直接消費者に売れる、その船上で売る試み自体が、消費者の購買欲をくすぐる、面白いとバルニバービの社長がおっしゃっていました。そうかと。レストランやホテルを展開して成功を収めている社長から見てもなかなか面白い試みなのだと思い、もっとこれを応援したいとの気になりました。船上販売をした方々を雑賀崎に留めておこうと今回の実証実験をしますが、ゆくゆくはここだけではなく、雑賀崎へ上がる道――松下体育館から車で上がると雑賀崎を通り和歌浦へ抜けていく道――その周辺はあまり美しいとは言いがたい。海側を見るととても綺麗だけれど、その上がっていく道の周りは綺麗ではないので、この辺を綺麗にしていく。そこでブランド価値という街の価値が上がっていく。そのときに、雑賀崎も田ノ浦も和歌浦も綺麗にしていきますというより、グレイター和歌浦湾を一体としてみんなで盛り上げましょうという方が、市民の心に響くのではないか。外に観光客を誘致するときにも、グレイター和歌浦湾が心に響いてくれるのではないかと期待しています。和歌山市によくお越しいただく岬町長さんや阪南市長さんなどは、和歌山市と観光戦略で共闘したいと。今までは競争していたのですが、これからは関空の南側の自治体が組んで一緒にやりませんか。泉佐野市ともそんな話があります。それが私の描いていたグレイター和歌浦湾で、これからは点の観光より面の観光。和歌山市に来てもらい、岬町にも行ってもらい、フェリーに乗って淡路島へ行ってもらうのもいいかもしれないし、淡路島に行った人がフェリーに乗って岬町に来てもらい、和歌浦も見てもらいという、海一体の観光プレゼンテーションができるかもしれない。県議会議員の時代、関西広域連合の議会へ行ったときに話題になったのが、それぞれの県は、例えばアメリカ人に和歌山県、三重県、奈良県と言っても響かない。けれど関西というと、「お、関西」「関西エアポート」があるから、関西として観光行政をしてはどうかと提案がありました。和歌山・奈良・三重は「やろう」と言っても、京都、その時はまだインバウンドが来ていなかった時代ですが、京都は「もう手一杯、もう結構、勝手にやって」と組んでくれなかった。大きくなりすぎると難しい一方、言葉は綺麗ではないけれど長らく関空の南側は「関空の扇風機の裏側」と言われてきた、その扇風機の裏側にならないようにしなければならないと言ってきた。残念ながら関空に来た人はほとんど北へ行ってしまい、南側の自治体は何とか関空からこっちに来させようと。そのためには魅力あるエリアにならなければなりません。それぞれ点で岬町、阪南町、泉佐野市としても、京都や大阪の魅力に抵抗できないですからね。我々南側で組み、高野山ぐらいまで入れた一つのツアーを周遊してもらうような広域の観光というのを作っていきたい。幸い外国の方は 1 週間から 10 日は日本にいらっしゃるので。まずは和歌山市の中でも雑賀崎の点に留まることなく、海南市や岩出市、紀の川市ぐらいまで広げた、面でとらえた観光をしていきたい。例えば紀の川市のフルーツロードでいちご狩りをやりませんかというイメージです。和歌山市にもいちご狩りをしているところはありますけれど。そういう、

面でとらえた観光のためのツールの一つとして、雑賀崎漁港の実証実験もどれぐらい喜んでもらえるか見ていきたいと思います。
（記者）：
市長ご自身が取組まれて思い入れのある脱炭素社会の実現に向けた先行地域のモデルエリアへの取組がスタートすることについて、市長ご自身の思い、意気込みをもう一度お願いします。
（市長）：
岸本さんが知事になられたときに総合計画を変えるタイミングで、特に「脱炭素で成長を目指す」と書き込まれることになりました。それに私が質問をしました。当時、脱炭素の試みはどちらかというと経済成長を抑制するとの意味合いが強く、トランプ米大統領の「離脱する、そんなことをしていたらアメリカの発展が阻害される」との意見もありました。今日の日経新聞に出ていましたが、ヨーロッパは脱炭素の試みがスローダウンしており、ＡＳＥＡＮはどんどんやろうと言っているのですが、ＥＶが行き過ぎた反省もあるかもしれません。岸本知事は「脱炭素を進めることこそが、和歌山の経済成長につながる」と強くおっしゃった。それに対して私が質問しました。個人的に岸本さんは高校の先輩でもあり、「1 回昼飯でも食べませんか」と言われ、昼飯を一緒にいただいた。その時に彼はこう言いました。「これから和歌山に企業誘致をしていくときに脱炭素由来の電源がどれだけあるかが決め手になる。やみくもに工場来てくださいと言っても誰も和歌山に来ない。脱炭素電源がこれだけあります、グリーンエネルギーがこれだけありますと言って初めて企業誘致ができる。だから和歌山の経済成長と脱炭素はイコールなのです。だから私はそこに書き込むのです」とおっしゃった。なるほどなあと思いました。それで個人的な知り合いの起業家の方々と東京でお会いして聞くと「そうですね、その潮流は変わらないでしょう」とおっしゃった。そういうことかと納得しました。国のＧＸ戦略地域の有望地域に和歌山市の西防波堤沖埋立エリアとコスモパーク加太エリアが県と市の共同で申請を出していますが、ＧＸ戦略はいわゆる脱炭素電源を作り、その電源を利用する工場を誘致して産業クラスターを作る、これが次の戦略です。第一次選考で和歌山市は残念ながら準備不足もありましたが、これから加速させていき、この西防波堤沖埋立エリアやコスモパーク加太エリアの和歌山市所有地にもＧＸ戦略地域として投資を呼び込みたいと考えています。国の方も、岸本知事のおっしゃっていた通りの経済戦略を進めていくことになりました。17 の成長分野、関西エリアでは脱炭素が入っています。ほかに宇宙、バイオなど。その 17 の成長分野を取り込んで高市内閣の日本成長戦略、2040 年まで 370 兆円、その中の一環に地域未来戦略もＧＸ戦略地域も入っており、共に和歌山市がエントリーをしています。これをどうしても実現させて脱炭素に起因する経済成長を遂げていかさねばならないと決意を新たにしているところです。

発表項目以外の質問

（記者）：
明後日、南海フェリーの関係で宮﨑知事が徳島の後藤田知事と意見交換をされることになっていますが、そこに対する期待感や、ここまで和歌山市としての航路存続に向けた取組などでお話いただけることありましたらお願いします。
（市長）：
交渉するときに複数の窓口があると非常に交渉のエネルギーが分散されてしまい、うまくいかないことが多いです。こういった問題はナーバスなので、和歌山市としては県に交渉の窓口を一本化しています。知事の方で交渉していただき、「和歌山市はこういったことで協力してほしい」との申し出があれば、県と歩を一にして進めていきたいと考えています。当初から知事とはそんな話をしています。和歌山市が独自に様々なところへ「引き継いでくれませんか」と交渉に伺うと、交渉先は「一体どの話がどうなっているのだろう」となり、極めて非効率になります。この交渉については知事にお任せしています。今回の会談の推移を見守りたいと思います。
（記者）：
今の質問の関連です。もともと一任しているので「出席しませんか」との話もなかったのでしょうか。
（市長）：
むしろ出席する方が、交渉を進めにくいのではないかと思いました。知事が私に気兼ねしてしまうより、私としては「知事がまとめる方向に一緒に行きます」とお伝えしています。予算の制約はあるでしょうけれど、和歌山市にとっても南海フェリーは重要な問題なので、知事にお任せしています。横から口を出すと、その調整が長引いてしまう。おそらくですが、意中の譲渡先がおありになると思います。ナーバスな問題なので踏み込みませんけれど、交渉先に「一体どこが交渉の窓口なのか」と思われないようにしなければなりません。これはどのような交渉でも同じです。窓口が増えて関わる方の数が多くなればなるほど交渉は難しくなってしまいます。この問題については、当初から知事が「自分が責任を持ってやる」とおっしゃっています。これはすごい決断だと思います。私はびっくりしたくらいです。「知事はそこまでおっしゃるのか。政治家として大きな交渉に臨まれるのだな」と思いました。しかも副知事等に任せず自分がやるとの気構えでおっしゃっているので、私としては知事にお任せしようと思います。